

(別 紙)

平成26年度動物愛護管理功労者大臣表彰の受賞者

受賞者	はちや のぶこ 蜂谷 信子 (91歳) 長野県 (元長野県動物愛護会理事)
主要功績	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 昭和54年に、長野県動物愛護会設立に携わるとともに、長きにわたり、飼い方教室において飼い主を指導するとともに、家庭犬のインストラクター養成講習会を運営する等、動物の適正飼養の知識や動物愛護思想の普及啓発に貢献している。</li><li>○ 昭和56年より、「犬の散歩中の糞ポイゼロ活動」を牽引するとともに、会員の人材育成や飼い方教室等への助言を行う等して、会の事業を発展させ、動物の適正飼養知識の普及啓発に貢献している。</li></ul>

受賞者	さかもと まさこ 坂本 政子 (71歳) 岐阜県 (Dog ボランティアクラブ代表)
主要功績	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 平成13年に、Dogボランティアクラブを立ち上げ、代表として、動物を連れて高齢者や病院等を訪問し、動物とのふれあい方や命の大切さを伝える活動を開始し、これまでに多くの施設を訪問し、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発に貢献している。</li><li>○ 平成17年から、小中学生を対象に動物愛護教室を開催し、多くの小中学生に命の大切さや動物についてのふれあい方を教育し、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発を行っている。</li><li>○ 平成23年より、犬等の動物を連れて東日本大震災被災地の仮設住宅を訪問し、慰問活動を行っている。</li></ul>

<p>受賞者</p>	<p>すだ おきお 須田 沖夫 (69歳) 東京都 (一般社団法人家庭動物愛護協会会長)</p>
<p>主要功績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昭和62年から、幼稚園での動物とのふれあい教室を開催するとともに、社団法人日本動物病院福祉協会(当時)会員として、10年以上にわたり、動物を連れて福祉施設を訪問する等して、命の大切さや動物とのふれあい方を教育し、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発を行っている。</li> <li>○ 平成12年から、学校における飼育動物の管理の指導やふれあい教室を開催し、学校飼育動物の適正飼養や動物愛護思想の普及啓発に取り組んでいる。</li> <li>○ 平成18年より、(社)東京都家庭動物愛護協会(現在、(一社)家庭動物愛護協会)会長として、新たにシンポジウムやしつけ講習会等の活動を開始するとともに、普及啓発パンフレットの作成配布等の普及啓発事業を企画運営し、会の発展に貢献するとともに、動物愛護思想の普及啓発に貢献している。</li> </ul>

<p>受賞者</p>	<p>きむら よしゆき 木村 芳之 (60歳) 群馬県 (公益社団法人群馬県獣医師会会長)</p>
<p>主要功績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成11年から、獣医師会が主催する動物愛護ふれあいフェスティバルを企画、運営し、平成13年からは(公社)群馬県獣医師会副会長、平成16年からは同会長として、県内各地で動物愛護ふれあいフェスティバルを主導、発展させ、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発に貢献している。</li> <li>○ (公社)群馬県獣医師会副会長、会長として学校における飼育動物の衛生管理やふれあい教室を主導、発展させ、子どもたちに命の大切さや動物の適正飼養の知識の普及啓発を行っている。</li> <li>○ また、(公社)群馬県獣医師会会長として、群馬県の総合的動物愛護施設の設置に向けて、署名活動や議会への請願、県議団の視察を主導する等、平成27年4月開設予定の施設設置の原動力となった。</li> </ul>

受賞者	<p>ながのけんどうぶつあいごかいしょうえんちくしぶ  長野県動物愛護会松塩筑支部          長野県</p>
主要功績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昭和59年に、支部が発足以来、「ペット無料健康相談」や動物愛護週間等での普及啓発活動を継続的に実施するとともに、昭和63年より、普及啓発のための機関誌を発行し、行政、小中学校及び獣医師会等へ配布する等、長きにわたり、動物の適正飼養や動物愛護思想の普及啓発に貢献している。</li> <li>○ 平成4年から、犬のしつけ方教室を開催するとともに、平成15年からは猫の飼い方相談会、平成16年からは犬の飼い方相談会を開催し、動物の適正飼養の推進に貢献している。</li> <li>○ 平成6年より、動物を連れて福祉施設を訪問する等して、命の大切さや動物とのふれあい方を教育し、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発を行っている。</li> </ul>

注) 受賞者の年齢は、平成26年9月25日現在。